

## SURA 40. ガーフィル章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.ハー・ミーム。

2.この啓典は、偉力ならびなく全知なるアッラーから下されたものである。

3.罪を赦し、悔悟を受け入れ、懲罰には厳しい方で、惜・なく与える主であられる。かれの外に神はなく、誰でも行き着くところはかれの御許である。

4.不信心な者以外は、誰もアッラーの印に就いて議論などしない。だからかれらが諸都市を往来するのに、惑わされてはならない。

5.かれら以前にもヌーフの民やその後の人びとは、(預言者を)嘘付き呼ばわりした。そしてこれら(不信心)の徒は、かれらの預言者に策謀し、かれら(使徒)を捕まえて詰まらない議論を吹きかけ、真理を非難した。そこでわれはかれらを捕えた。わが懲罰は何と厳しかったことよ。

6.このように、あなたがたの主の御言葉は、不信心の者たちの上に実証される。かれらは本当に業火の仲間である。

7.(主の)玉座を担う者たち、またそれを取り囲む者たちは、主の御光を讃え、かれを信仰し、信じる者のために御赦しを請い、祈って(言う)。「主よ、あなたの慈悲と知識は、凡てのものの上にあまねく及びます。悔悟してあなたの道を踏む者たちを赦され、かれらを炎の懲罰から御守り下さい。

8.主よ、あなたがかれらに御約束なされたアドン(エデン)の国に、かれらを入れて下さい。またかれらの祖先、配偶者と子孫の中の正しい者を。本当にあなたは、偉力ならびなく英明であります。

9.かれらを悪から御守り下さい。その日、あなたが諸悪から御守り下された者は、本当に慈悲に浴した者であり、それこそ、偉大な成就です。」

10.そして不信心の者たちには申し渡されよう。「あなたがた栗いの愛想ずかしよりも、アッラーからのあなたがたへの嫌悪は、はるかに大きいのである。あなたがたは、信仰を勧められたのに、断っていたのである。」

11.かれらは申し上げよう。「主よ、あなたはわたしたちを2度死なせ、2度甦らされました。今わたしたちは罪業を認めました。何とか脱出する道はないですか。」

12.(すると答えられよう。 )「そんなことになったのは、唯一なるアッラーを崇めることは拒否したが、かれに同位者が配される時には信じた。つまり裁決は、至高にして至大なアッラーに属するのである。」

13.かれこそは種々の印をあなたがたに示し、あなたがたのために天から御恵・を下される方である。だが、悔悟して(主に)帰る者だけは、訓戒を受け入れる。

- 14.それであなたがたは、アッラーに誠意を尽して托し、かれに祈願しなさい。譬え不信者たちが忌・嫌っても。
- 15.かれは至高の位階におられ玉座の主であられる。かれはしもべの中御心に適う者に、御命令により聖霊を遣わし、（人びとに）会見の日を警告なされる。
- 16.この日、かれら（凡て）が、罷り出る時、何事もアッラーに隠しだては出来ない。その日大権は、誰にあるのか。（それは）唯一なる御方、抵抗出来ない御方、アッラーに属する。
- 17.その日、各人は行ったことによって報いられる。不正のない日である。本当にアッラーは清算に迅速であられる**B**
- 18.だからあなたは、近付いているその日に就いてかれらに警告しなさい。その時かれらの心臓は喉元に上って塞ぎ、息を止める。悪行の者には一人の友もなく、執り成す者がいたにしても聞き入れられない（その日のことを）。
- 19.（アッラーは）目つきも、胸に隠すことをも凡て知っておられる。
- 20.アッラーは、真理によって御裁きになる。だがかれを差し置いて、かれらの祈る者たちは、何も裁くことは出来ない。本当にアッラーは、全聴にして凡てを見透される。
- 21.かれらは地上を旅して、かれら以前の者の最後がどうであったかを観察しないのか。かれらは、これら（マッカの多神教徒）よりも有力で、地上に残す遺跡においても優れていた。しかしアッラーは、かれらを罪のために捕えられた。その時アッラーから、かれらを守る者は一人もなかった。
- 22.かれらの使徒たちが、明証を（打？）した時、かれらはそれを拒否した。それでアッラーはかれら捕えられたのである。本当にかれは強力で、懲罰に厳重であられる。
- 23.先にわれは、わが印と明らかな権威をもってムーサーを遣わした。
- 24.フィルアウンとハーマーンとカールーンに。だがかれらは「嘘付きの魔術師です。」と言った。
- 25.かれがわが許から真理を（有？）したのに、かれらは、「かれと共に信仰している者の男児を殺し、女兒を生かしておきなさい。」と言った。だが不信者の策謀は、失敗に終る外はない。
- 26.フィルアウンは言った。「ムーサーを殺すことは、わたしに任せなさい。そしてかれの主祈らせなさい。かれがあなたがたの宗教を変えて、国内に災厄を引き起こしはしないかと、わたしは心配でなりません。」
- 27.ムーサーは言った。「本当にわたしは、清算の日を信じない凡ての高慢な者に対して、わが主、また、あなたがたの主（の守護）を、祈るのです。」
- 28.フィルアウンの一族の中で、密に信仰している一人の信者が言った。「あなたがたの主から明証を（有？）し、『わたしの主はアッラーである。』と言っただけのために、人ひとりを殺そうとするのですか。もしその人が嘘付きであれば、その嘘はその人の身の上に降りかかり、その

人が真実を言っているのならば、その人が警告することの一部はあなたがたの身の上に降りかかるでしょう。本当にアッラーは無法者と嘘付者を御導きになられない。

29.わたしの人びとよ、今、主権はあなたがたのものであり、あなたがたはこの地上の主人です。だがアッラーの懲罰が下ると、誰がわたしたちを救えるでしょうか。」フィルアウンは言った。「わたしは（自分の）見えるところを、あなたがたに示すだけです。また（それが）あなたがたを、正しい道に導くのです。」

30.そこでかの信仰する者は言った。「人びとよ、わたしは、（信仰を拒否した）各派の人びとの（運命の）日のようなものが、あなたがたに（下るのが）恐ろしいのです。」

31.またヌーフ、アード、サムードの民と、その後の諸民族の上になつたような運命を（恐れる）。本当にアッラーは、そのしもべに対し不義を御望・になられません。

32.人びとよ、わたしはあなたがたのために、あなたがたが栗いに相呼び合う日を恐れます。

33.その日あなたがたは、背を向けて逃げるでしょう。しかしアッラーからあなたがたを守る者はいません。アッラーが迷うに任せられる者には導き手はいません。」

34.本当に以前ユースフが明証を(打?)した時も、かれが(お?)したものに就いて、あなたがたは疑いを抱いて止まなかった。かれが死んだ時になって、あなたがたは、『かれの後にアッラーは、使徒を遣わされないでしょう。』と言った。このようにアッラーは、無法者と懷疑者を、迷うに任せられる。

35.何の権威も与えられないのにアッラーの印について論う者は、アッラーからもまた信者たちからも酷く忌・嫌われよう。このようにアッラーは、凡ての高慢で暴逆な者の心を封じられる。」

36.フィルアウンは（大臣に命じて）言った。「ハーマーンよ、わたしのために高い塔を建てなさい。わたしが（天国の）門に到達出来るように。」

37.そうすればムーサーの神を見るでしょう。どうせかれ（ムーサー）は嘘をついているに違いないのですが。」このようにフィルアウンには、自分の悪い行いが立派に見えて、（正しい道）から締め出されてしまった。フィルアウンの策謀は、破滅を（西？）すだけであった。

38.かの信仰する人は言った。「人びとよ、わたしに従いなさい。正しい道にあなたがたを導きます。」

39.人びとよ、現世の生活は束の間の享楽に過ぎません。本当に来世こそは永遠の住まいです。

40.悪事を行った者は、それと同じ報いをうけます。だが善行をする者は、男でも女でも信者なら凡て楽園に入り、そこで限りない御恵・を与えられます。

41.人びとよ、これはどうしたことか。わたしはあなたがたを救おうと招くのに、あなたがたは火獄にわたしを招くとは。

- 42.あなたがたは、アッラーを敬わないで、わたしの知らないものをかれと一緒に配するよう勧めます。だがわたしはあなたがたを、偉力ならびなき方、度々赦しなされる方に招くのです。
- 43.正しくあなたがたは、現世でも来世でも祈りを受ける権能のないものにわたしを招きます。本当にわたしたちの帰る所はアッラーの御許で、反逆の徒は火獄の仲間です。
- 44.わたしが言ったことを、やがて思い出すでしょう。わたし（自身）のことはアッラーに委ねています。アッラーはしもべたちを見守られます。」
- 45.そこでアッラーは、かれらの策謀の災厄から、かれを救われ、懲罰の災難が、フィルアウンの一族を取り囲んだ。
- 46.かれらは朝に夕べに業火に晒され、それから時が到来するその日、「フィルアウンの一族を、最も厳しい懲罰に投げ込め。」（と仰せられよう）。
- 47.見よ、かれらは獄火の中で栗いに口論する。弱者たちは、高慢であった者たちに言う。「わたしたちは、あなたがたに従っていました。あなたがたは獄火の一部を、わたしたちから取り除いてくれてもよいではありませんか。」
- 48.高慢であった者は（答えて言う）。「本当にわたしたちは、皆その中にいます。アッラーはしもべたちの間を、もう判決されてしまった。」
- 49.そこで、獄火の中にいる者たちは、地獄の看守（天使）にいう。「この懲罰が、一日（でも）わたしたちから軽くなるよう、あなたの主に嘆願して下さい。」
- 50.かれら（天使）は言う。「使徒が、あなたがたに明証を持って行かなかったのか」。かれらは（答えて）言う。「その通りです。」かれら（天使）は言う。「それなら祈るがいい。」しかし、これら不信心者の嘆願は、誤り（の迷路）に（虚しくさ迷って）いるだけである。
- 51.本当に現世の生活においても、また証人たちが（証に）立つ日においても、われは必ずわが使徒たちと信仰する者たちを助ける。
- 52.その日、悪行をした者の弁解は無益で、かれらには責め苦があり、悪い住まいだけがある。
- 53.われはムーサーにしっかりと導きを授け、イスラエルの子孫に、その啓典を継がせた。
- 54.（それは）思慮ある者への導きであり、訓戒である。
- 55.だから耐え忍べ。本当にアッラーの約束は真実である。あなたは過誤の赦しを請い願ひ、朝夕、主を讃えて唱念しなさい。
- 56.何の権威も授かっていないのにアッラーの啓示に就いて論う者は、胸の中につか・ようなない高慢だけを抱く者である。だからあなたがたはアッラーの加護を請いなさい。本当にかれは全聴にして凡てを見透される御方である。
- 57.天と地の創造は、人間の創造などよりも偉大である。だが人びとの多くはそれを理解しようとはしない。

- 58.盲人と正常の目の人とは同じではなく、また信仰して善行に勤しむ者と、悪行の徒とは同じではない。訓戒を留意する者は稀である。
- 59.本当にその時は、確実に来るのである。それに疑いの余地はない。だが人びとの多くは信じてはいない。
- 60.それであなたがたの主は、仰せられる。「われに祈れ。われはあなたがたに答えるであろう。だがわれに仕えるのに高慢な者たちは、必ず面目潰れの中に地獄に陥るであろう。」
- 61.アッラーこそは、あなたがたのために夜を蝕けて憩いの時とされ、またものが見えるように昼を蝕けられる方である。アッラーは人間に対し、本当に恵・深くあられる。だが人びとの多くは感謝しない。
- 62.これこそは、あなたがたの主アッラー、万有の創造の主であられる。かれの外には神はないのである。それなのにどうしてあなたがたは迷い去るのか。
- 63.アッラーは印を拒否する者を、このように迷わせられる。
- 64.アッラーはあなたがたのために大地を安息所とされ、大空を天蓋となされ、また、あなたがたに見事な姿を授けて、形作り、色々な良い御恵・を支給された方である。これが、あなたがたの主アッラーであられる。万有の主アッラーに讃えあれ。
- 65.かれは永生であられ、かれの外に神はない。だからかれに祈り、信心の誠を尽してかれに傾倒せよ。万有の主アッラーに讃えあれ。
- 66.言ってやるがいい。「わたしはあなたがたが、アッラーを差し置いて崇拜するものに、仕えることを禁じられた。主からの明証が、わたしに下され、万有の主に、服従、帰依するよう命じられたのである。」
- 67.かれこそは、泥からあなたがたを創られ、次いで一滴の精液から、次いで、一かたまりの血から赤ん坊にされて、あなたがたを出生させ、それから十分な力量を備えさせ、それから老いさせられる方である。あなたがたの中（老いる）前に死ぬ者もいるが既定の時期にまで達せられることは、あなたがたに反省させるためである。
- 68.かれこそは生を授け、また死を授ける方である。かれが一事を決められそれに対し「有れ。」と仰せになれば、即ち有るのである。
- 69.あなたがたはアッラーの啓示に就いて、論う者を見なかつたのか。かれらは何と背き去つたことよ。
- 70.これらは啓典を虚偽であるとし、またわれが遣わした使徒たちの（西？）す消息を、虚偽であるとする者。やがてかれらは思い知るであろう。
- 71.加がかれらの首に(墳?)められ、また鎖が巻かれ、かれらは引かれるであろう。
- 72.沸騰する湯の中に、それから火獄の中に投げ込まれる。

- 73.その時かれらに言われよう。「あなたがたが崇拝していた神々は何処にいるのか。
- 74.アッラーを、差し置いていたのか。」かれらは（答えて、）「かれら（神々）は、わたしたちから離れ去りました。いや、わたしたちは以前、何も（実巧のものに）祈ってはいなかったのです。」と言う。このようにアッラーは不信心の者を迷うに任せられる。
- 75.それもあなたがたが地上で、正しくない歓楽を追求し、また横柄であったためである。
- 76.あなたがたは地獄の門に入り、その中で永遠に住め。何と高擧の者の住まいの哀れなことよ。
- 77.あなたがたは耐え忍べ。本当にアッラーの約束は真実である。われがかれらに約束した一端をあなたに示すこともあろう。またはあなたを（その前に）召すことも。だがどちらにしても、かれらはわれの許に帰されるものである。
- 78.われはあなた以前にも、使徒たちを遣わした。その或る者に就いてはあなたに語り、また或る者に就いては語ってはいない。だがどの使徒も、アッラーの御許しによる外、印を（宙？）することはなかった。そしてアッラーの大命が下れば、真理に基づいて裁かれる。そのとき、虚偽に従った者たちは滅びる。
- 79.アッラーは、あなたがたのため家畜を創られた方で、あなたがたは、その或るものは乗用に、或るものは食用に用いる。
- 80.あなたがたはそれらに、様々の便益を被り、あなたがたの胸に抱く望・も、それらによって満ちたし、またその背や船によってあなたがたは運ばれる。
- 81.そしてかれは種々の印を、（絶えず）あなたがたに示される。一体アッラーの印のどれをあなたがたは否定するのか。
- 82.かれらは地上を旅して、観察しなかったのか。かれら以前の者の結末がどうであったかを。かれら（滅ぼされた民）は、これら（マッカの多神教徒）よりも多数で、力も優れ、地上の遺跡も多い。それでも、かれらの稼いだことは、何の役にも立たなかった。
- 83.かれらの使徒たちが種々の明証をもってかれらの処に来た時、かれらはその持っている知識（と技術）を誇った。だが、かれらの嘲笑していたことが、かれらを取り囲んでしまった。
- 84.それからかれらは、われの懲罰を見る時になって、「わたしたちは、唯一なるアッラーを信じる。そしてかれに配していたものを拒否する。」と言った。
- 85.しかしわれの懲罰を見てからの信仰（の告白）は、かれらの役には立たない。（これは）アッラーのしもべに対してなされたかれの慣行であった。そして、不信者たちは滅び去った。

## SURA 41.フッスイラ章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.ハー・ミーム。